

授業概要

子どもの表現に関わる資質・能力をバランスよく育成させるためには、造形遊びや工作の活動、絵や立体の中で、子どもが納得するまでつくらせていく。特に再構成（つくり、つくりかえ、つくる）を満足のいくまで持たせる学習活動が必要であろう。このことは造形指導をする指導者にも、幅広い経験と深い学びが必要であると考えられる。習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげられる授業づくりを目指し、題材研究を進めていく。

本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いと、学習指導要領の「内容の取扱いと指導上の配慮事項」についての理解を深める。また、幼児・児童期における発達段階の作品に触れ、幅広い造形の基礎技能の習得を図ることをねらいとする。ICTを活用した様々な造形表現についても理解を深める。

授業計画

第1回	授業ガイダンス（子どもの遊びと造形表現、保幼小の接続と連携）
第2回	子どもの絵の発達段階と様々な表現（観察画・創造画・水彩画：遠近法の活用）
第3回	題材研究1：ドリッピング（垂らし絵）とパチック（はじき絵）
第4回	題材研究2：スパッタリング：型を用いたグラデーションの基本（色相・明度・彩度について）
第5回	題材研究2：スパッタリング：型を用いたグラデーションの応用（明暗の調子と色の濃淡）
第6回	題材研究3：紙工作 立体構成ーからくりBOX（自分の見方や感じ方を広げ深める）
第7回	題材研究4：紙工作 環境構成ー窓辺の飾り（材料と関わりながら、構想を立ち上げる）
第8回	題材研究5：空の彫刻ー凧作りと歴史ー（地域の伝統行事について見つめる）
第9回	題材研究5：空の彫刻ー凧の揚げ方と安全指導ー（材料や場所の特徴をいかして工夫する）
第10回	題材研究6：芯材を使った粘土制作① 紙粘土の特性と種類
第11回	題材研究6：芯材を使った粘土制作② 量塊と動勢
第12回	題材研究6：芯材を使った粘土制作③ 彩色による効果と仕上げ（ニス）
第13回	地域の美術館の活用について（デジタル教材と鑑賞教育）、表現及び鑑賞学習の指導と評価
第14回	ICTを活用したデジタル絵本（アナログ絵本とデジタルの応用）
第15回	ICTを活用したクレイアニメーション（粘土による造形表現）
第16回	まとめ（デジタルカメラで撮影した自身の作品を使っての鑑賞学習：対話と言語活動の充実へ）

到達目標

- ・図画工作科の学習環境とその運営、施設・設備に関する環境の配慮について理解する。
- ・表現及び鑑賞の学習指導と評価について理解を深め、造形表現に関する知識や基礎技能の習得を図る。
- ・造形活動を通して、様々な材料用具の正しい扱い方と安全指導を身につける。

履修上の注意

- ・造形活動で用いられる様々な材料用具（工作用紙・紙粘土・絵の具等）は、各自が準備することになる。詳細は授業内で随時伝える。
- ・GIGA スクール構想に対応するため、ノート PC/タブレット/クロームブックのどれかひとつは鑑賞学習で活用する予定である。
- ・学外活動又は外部講師による講演聴講の場合も予定される。

予習・復習

学生自身が造形活動を楽しみ、豊かな感性を育てることが求められる。そのための準備・努力を惜しまないこと。主体的かつ授業外においても、造形活動に取り組むことを期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

- ・教科書名：CT を活用した小学校デジタル教材アイデア 66
 - ・著者名：浦野弘・森本昭宏〔編著〕
 - ・出版社名：ジダイ社
- 参考書『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤 実・森本昭宏〔編著〕創成社〔出版〕ISBN：978-4-7944-8099-6（2年秋期「保育内容の研究ー造形Ⅰ」のこの教科書も活用する予定）